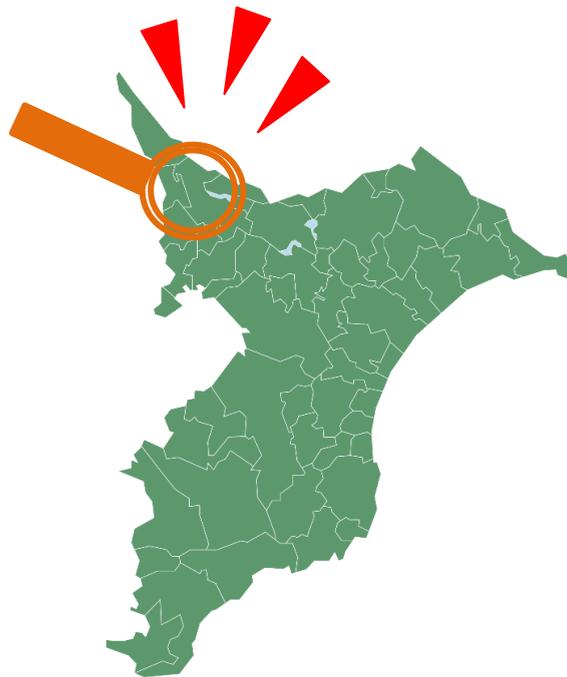


2022・7

# 柏の景気情報

令和4（2022）年7月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

# 柏の景気情報 (令和4年7月の調査結果のポイント)

## ★調査結果のまとめ

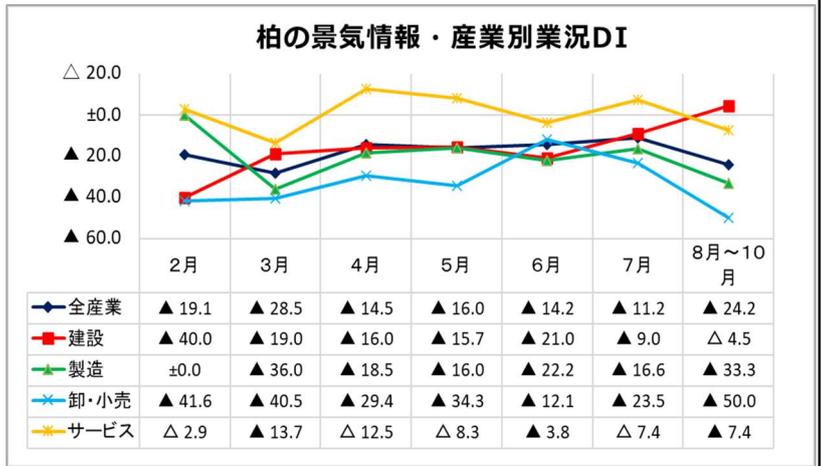
調査期間令和4年7月26日～8月9日 調査対象：柏市内151事業所及び組合にヒアリング、回答数107

### 全産業DIは2か月連続で改善。先行きは、コロナ感染再拡大や、コスト増による利益悪化で警戒感強い

7月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲11.2（前月水準▲14.2）となり、マイナス幅が3.0ポイント縮小した。

百貨店などの小売業では業況の改善が見られ、夏季セール期で来店客、取扱数増加とのコメントがあった。また製造業では、売上が伸びコスト上昇分を吸収できているとのコメントがあった。一方で、売上増加分を上回る仕入単価の値上げについてのコメントも見られた。また、感染症再拡大により、飲食店では予約キャンセル、従業員の感染による業務への影響について声が寄せられた。

先行きDIは▲24.2（今月比▲13.0）と、感染症の再拡大やコスト増による利益悪化で警戒感強い。



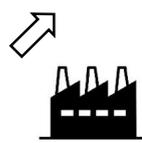
## ★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「材料高騰を見越して現時点の単価でのかけこみ受注が多い。仕入単価が上昇しているのに、現時点での単価受注に苦戦している」（とび）、「コロナ蔓延に伴い、社内でも感染者が出て業務に支障」（土木工事）、「建築資材の高騰が続く」（一般土木建築工事）、「8月からPay Payを導入予定」（畳）



製造業

「今は売上が伸び、原燃料価格上昇をなんとか吸収できているが今後が心配。コロナによる社員の自宅待機が増加」（鉄鋼）、「売上は増加するも、上回る勢いで仕入単価も増加。電力、ガソリン、副資材の値上げも続く」（金属製品）、「景気回復に向けた動きは感じるが、道路工事関連の予算の動きは鈍い」（化学工業）「生産量は微減だが、値上げしたため売上増も、仕入価格の上昇で利益は大幅減」（畜産食料品）、「半導体不足、サプライチェーンの分断による部品不足、金属、樹脂の値上げ、電力制限と価格上昇が、売上・利益に直結。また、コロナによるコミュニケーション不足も売上に影響。中国等のロックダウンの影響も大きい」（金属素形材製品）、「電気料金の高騰で、節電計画を立案中」（電子応用装置）、「電子帳簿保存法は印刷業界に厳しく、対策が必要」（印刷）



卸・小売業

「セール期の期待感もあり、入店数や飲食・アパレル等の取扱高は回復傾向。原油高、円安起因のコスト増が続く、コロナもあり先行きは懸念」（百貨店）、「コロナで買い物頻度が減少。好調だった衣料品に陰り。土用丑の日はうなぎの高騰で、昨年より下落」（大型小売店）、「市内飲食店の市場来店が減少。冬に仕入れた海苔の原価は変わらないが、包装資材、電気代の上昇で利益減」（食料卸売）、「柏市のPay Payポイント還元」に期待」（洋菓子店）、「前半は猛暑と雨、後半はコロナ第7波の影響が客数に影響。暑さ対策商品と共に、再びコロナ対策商品の売上が目立った」（各種商品小売）、「ネット購入が増加。実店舗の来店理由を産む必要性あり。天候の影響で異なる産地の出荷が重なり、供給過多で青果価格が低下」（青果小売）、「中古自動車の高騰が止まらない。ロシアもいつ輸入できなくなるか分からず、ルーブル高のため中古自動車や自動車部品を仕入れている」（自動車卸売）、「輸送コスト上昇、円安による為替差損等で大打撃」（工具輸入販売）、「養殖魚の魚価高、円安による輸入魚の単価高、水産物の売れ行きはよくない。また、コロナの感染拡大により、外食産業に陰りが見え始めた」（水産物卸売）



サービス業

「感染者急増で7月後半の団体客や会社関係の予約がキャンセルに」（日本料理）、「濃厚接触者となり夏期講習の欠席者が複数出て、補習授業に苦勞」（学習塾）、「標準的な運賃の公開後、運賃値上げに応じる荷主は少数の中、燃料費の高騰が利益を圧迫」（一般貨物自動車運送）、「値上げされるものは多いが工夫してこなし、見積り依頼は欲張らず、必ず契約を取るようになっている」（産業廃棄物処理）、「今年の2月より9割以上の施設で前年同月を割り、コロナバブルの終わりを感ずる。業界として、仕入高騰を価格転嫁できず、厳しくなりそう」（ゴルフ練習場）、「第7波、猛暑、大雨で客数減。既存ターゲットの世代を変える工夫が必要と感じ、ネット販売を準備」（飲食店）

## ★全国の商工会議所早期景気観測調査（CCI-LOBO）との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲11.2に対し、「CCI-LOBO」が▲17.8で柏の方がマイナス幅が6.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、全業種であり、建設業、卸・小売業は10ポイント以上良い。

# 今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
<b>業況DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 11.2	 ▲ 9.0	 ▲ 16.6	 ▲ 23.5	 7.4
CCI-LOBO	 ▲ 17.8	 ▲ 28.7	 ▲ 17.9	 ▲ 25.2	 ▲ 4.1
<b>売上DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 4.6	 ▲ 31.8	 12.5	 ▲ 8.8	 7.4
CCI-LOBO	 ▲ 4.4	 ▲ 19.5	 ▲ 5.0	 ▲ 9.5	 8.9
<b>採算DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 14.9	 ▲ 27.2	 ▲ 33.3	 ▲ 17.6	 14.8
CCI-LOBO	 ▲ 24.4	 ▲ 33.1	 ▲ 28.4	 ▲ 26.6	 ▲ 15.3
<b>仕入単価DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 71.9	 ▲ 63.6	 ▲ 95.8	 ▲ 79.4	 ▲ 48.1
CCI-LOBO	 ▲ 72.7	 ▲ 86.4	 ▲ 82.1	 ▲ 64.4	 ▲ 62.3
<b>従業員DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 22.4	 27.2	 25.0	 20.5	 18.5
CCI-LOBO	 17.9	 27.8	 10.9	 13.2	 22.6
<b>資金繰りDI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 13.0	 ▲ 4.5	 ▲ 33.3	 ▲ 20.5	 7.4
CCI-LOBO	 ▲ 15.4	 ▲ 9.8	 ▲ 14.2	 ▲ 25.7	 ▲ 13.9

# CC I - L O B O

## 商工会議所早期景気観測(7月速報)

調査期間：2022年7月13日～20日

調査対象：全国の331商工会議所が2,576企業にヒアリング調査を実施

**全国の業況**  
業況DIは、改善もコスト増により力強さを欠く。先行きは、物価高に加えて感染再拡大の懸念強まる

7月の全産業合計の業況DIは、▲17.8と、前月から+2.5ポイントの改善。人流の回復とともに、夏物商材が好調だった百貨店などの小売業で業況が改善した。民間の設備投資が堅調に推移した製造業や、小売業・製造業に牽引された卸売業で業況が改善した。一方で、全国的な新規感染者数の増加を受け、飲食・宿泊業で予約キャンセルが出始めたサービス業や、建設資材の高騰や設備機器の納期遅れが続いている建設業は業況が横ばいに留まった。世界的な物流の混乱や資源・原材料価格の高騰、田安、深刻な人手不足に伴う人件費増などのコスト増に歯止めがかからず、企業収益の足かせとなっている。コスト上昇分の価格転嫁も十分に行えない中、中小企業の業況は、改善傾向が続くも力強さを欠く。

先行きについては、先行き

見通しDIが▲23.0(今月比▲5.2ポイント)と悪化を見込む。4月に行動制限が解除されて以降、業種を問わず回復基調に入り、特にサービス業・小売業では、需要喚起策による売上回復を期待する声がある一方で、物価上昇による消費マインドの低下を危惧する事業者が増加した。また、今後も資源・原材料価格の高騰や田安の急伸によるコスト増加が見込まれる中、感染再拡大による行動制限などへの懸念が強まり、中小企業の先行きは、厳しい見方。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

**業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業、サービス業は横ばい、製造業、卸売業、小売業は改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。**

**【建設業】**「民間工事の受注数は増加傾向で活発化も、設備機器等の納期遅れは継続し、仕入単価の上昇も続いており、販売価格への転嫁が急務である」(一般工事業)、「一部資材の価格上昇は落ち着きが見えてきた。一方で、すでに値上げが決まっている資材もあり、適切な価格転嫁を実施していきたい」(建築工事業)

**【製造業】**「イベント等の再開で小売店への客足が戻り、受注数は増加。一方で、原材料価格の高騰が毎月のように起きており、その都度販売価格へ転嫁することもできないため、どうしても価格転嫁が遅れてしまっている」(パン・菓子製造業)、「半導体関連の需要が伸び、売上は増加している。しかし、国内で製造されていない部品も使用しているため、供給不足が足かせになっている」(特殊産業用機械製造業)

**【卸売業】**「小売店を中心に取引が増加し、売上は堅調に推移している。今後もメーカーからの値上げは続く見込みであり、輸送費等のコストも含めた価格転嫁対応が必要である」(食料・飲料卸売業)、「受注数増加に伴い、売上は改善している。段ボールなどの梱包資材が不足しているため、物流の回復による安定供給を望む」(電気機械器具卸売業)

**【小売業】**「行動制限がなく、気温の高い日も続いたため、夏物衣類を中心に売上が回復している。商品コストの上昇に加え、電気代などのエネルギーコストも継続的に上がっているため、利益の確保が今後の課題である」(百貨店)、「例年より早い時期に気温が上がったため、エアコンを中心に季節家電の売上が増加。天候に左右されず、売上を確保していきたい」(電気機械器具小売業)

**【サービス業】**「需要喚起策の影響で、客足は回復基調。宴会形式は鈍い状況が続くものの、コロナ禍を契機に個別配膳形式を導入したことが功を奏し、売上はコロナ以前まで回復した」(飲食店)、「県民割等の支援策で売上は回復している。一方、感染再拡大の影響で、夏休みを前にキャンセルも増えしており、先行き不安が残る」(宿泊業)

### 全国・産業別業況DIの推移

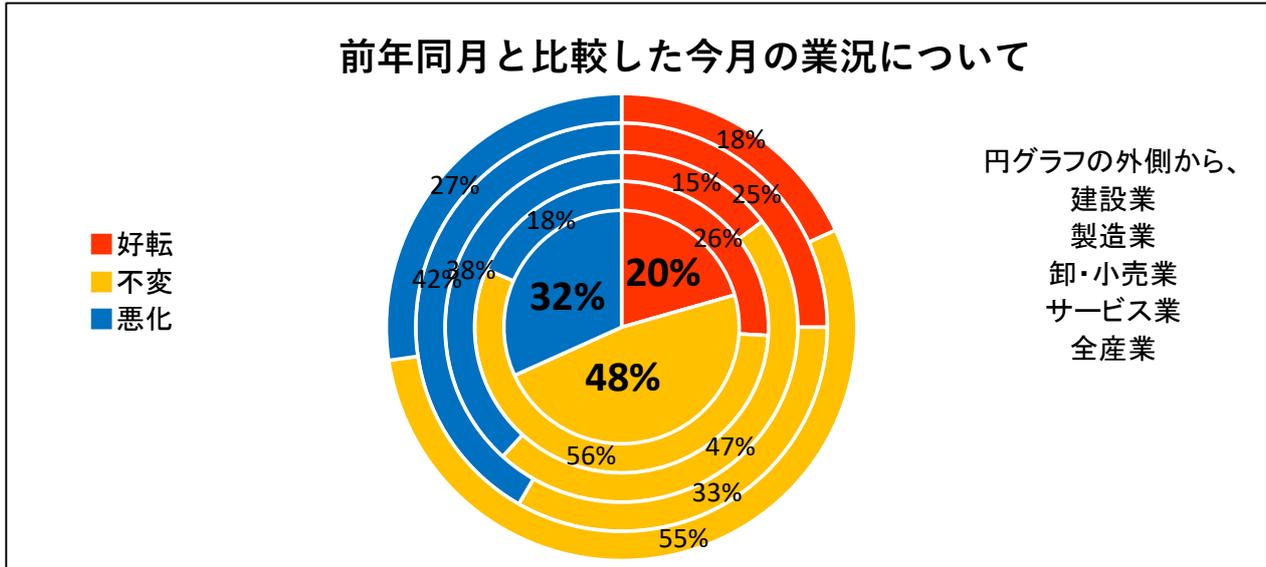
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
2月	▲33.9	▲22.9	▲21.1	▲38.2	▲43.8	▲43.2
3月	▲32.7	▲23.6	▲25.0	▲33.3	▲40.9	▲39.0
4月	▲25.7	▲27.0	▲17.0	▲28.3	▲39.5	▲21.1
5月	▲20.4	▲31.3	▲15.4	▲20.2	▲31.8	▲9.3
6月	▲20.3	▲29.3	▲19.8	▲22.0	▲32.2	▲4.4
7月	▲17.8	▲28.7	▲17.9	▲18.1	▲25.2	▲4.1
見通し	▲23.0	▲28.4	▲19.4	▲26.6	▲31.7	▲14.3

# 令和4年（2022年）7月の動向

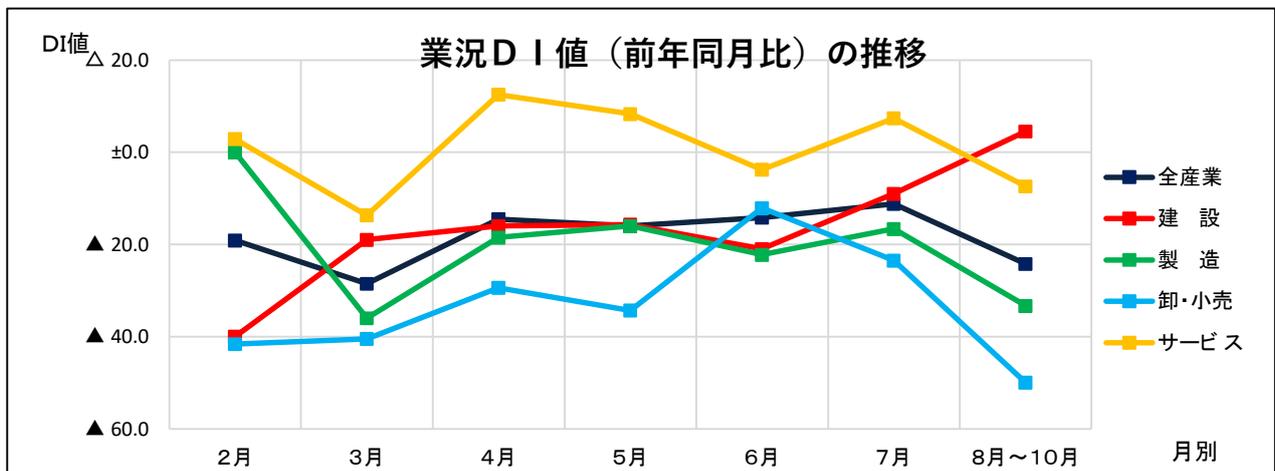
## 【業況について】

- 7月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲11.2（前月水準▲14.2）となり、マイナス幅が3.0ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（8月から10月）の先行き見通しについては、全産業では、▲24.2（前月水準▲8.5）となり、マイナス幅が15.7ポイント拡大する見通しである。



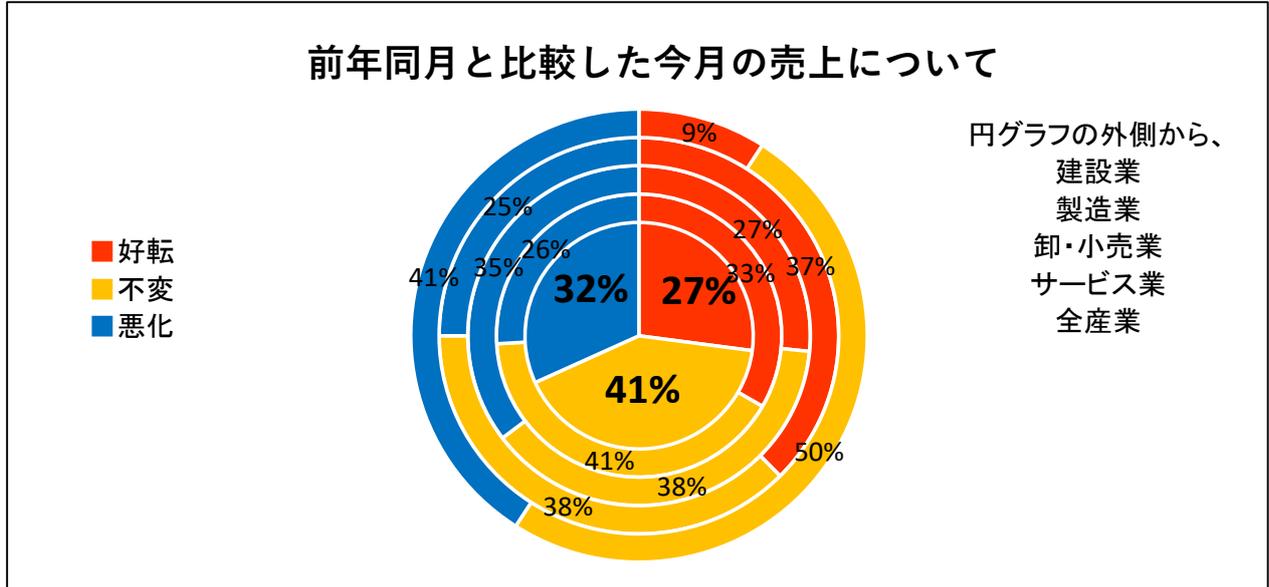
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和4年						先行き見通し
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月~10月
全産業	▲19.1	▲28.5	▲14.5	▲16.0	▲14.2	▲11.2	▲24.2
建設	▲40.0	▲19.0	▲16.0	▲15.7	▲21.0	▲9.0	△4.5
製造	±0.0	▲36.0	▲18.5	▲16.0	▲22.2	▲16.6	▲33.3
卸・小売	▲41.6	▲40.5	▲29.4	▲34.3	▲12.1	▲23.5	▲50.0
サービス	△2.9	▲13.7	△12.5	△8.3	▲3.8	△7.4	▲7.4



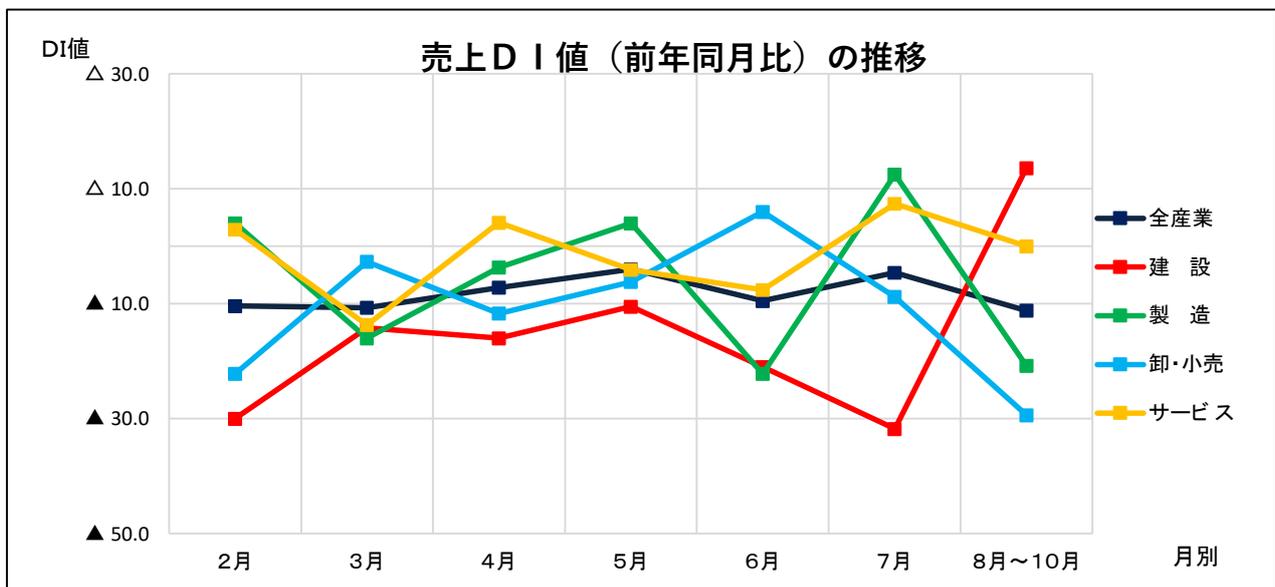
【売上について】

- 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲4.6(前月水準▲9.5)となり、マイナス幅が4.9ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲11.2(前月水準△0.9)となり、マイナス幅が12.1ポイント拡大する見通しである。



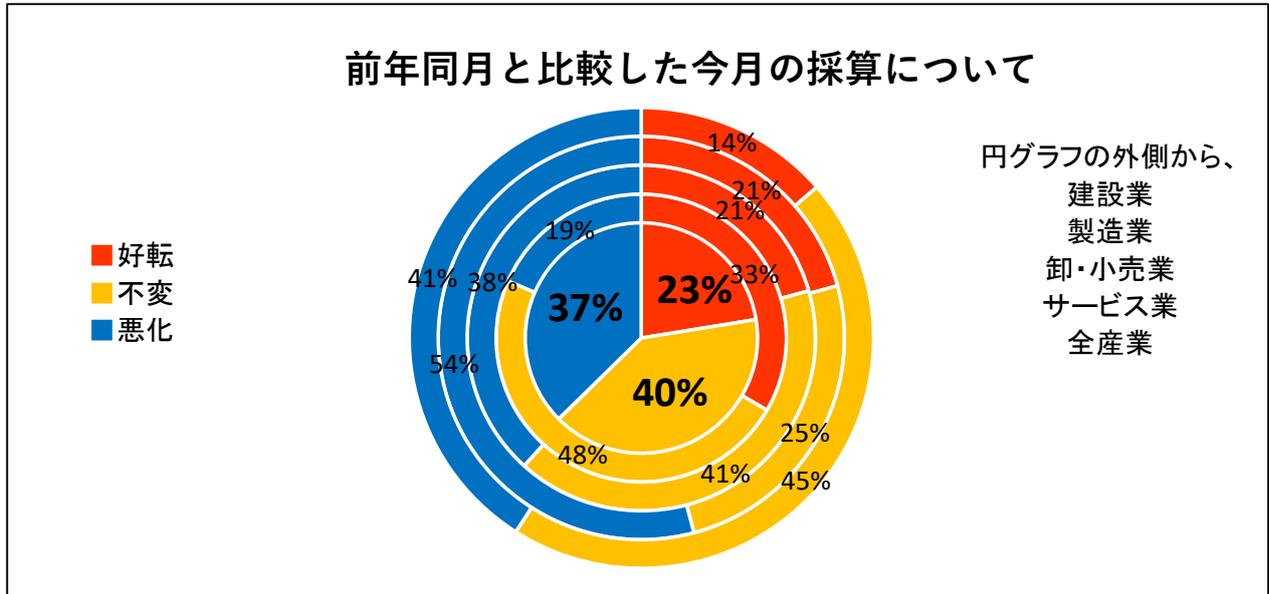
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和4年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲10.4	▲10.7	▲7.2	▲4.0	▲9.5	▲4.6	▲11.2(△0.9)
建設	▲30.0	▲14.2	▲16.0	▲10.5	▲21.0	▲31.8	△13.6(±0.0)
製造	△4.0	▲16.0	▲3.7	△4.0	▲22.2	△12.5	▲20.8(△3.7)
卸・小売	▲22.2	▲2.7	▲11.7	▲6.2	△6.0	▲8.8	▲29.4(▲6.0)
サービス	△2.9	▲13.7	△4.1	▲4.1	▲7.6	△7.4	±0.0(△7.6)



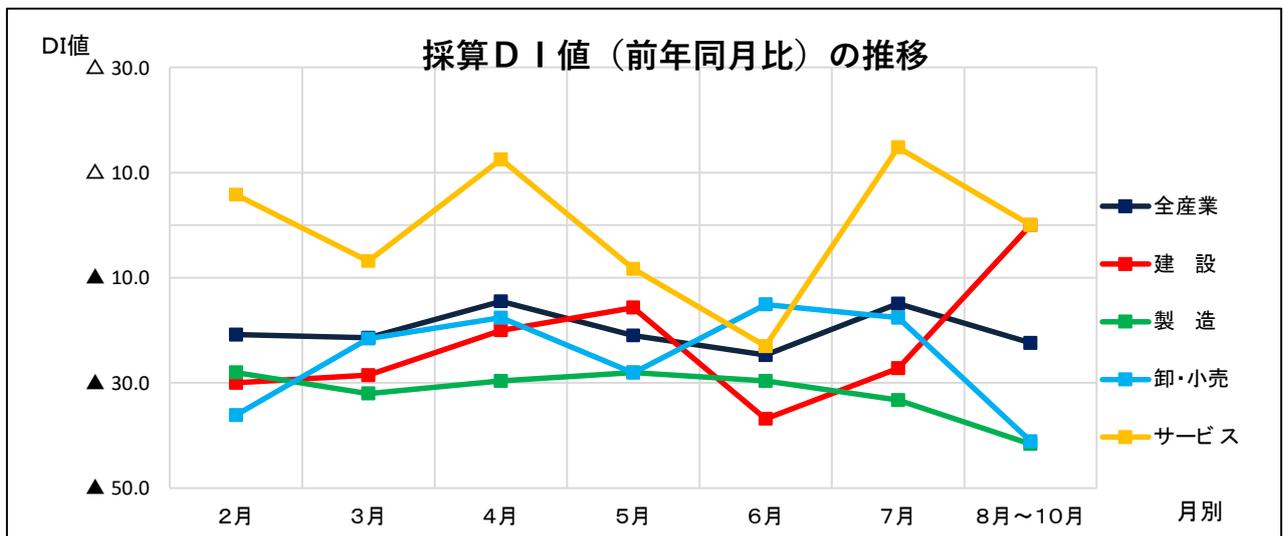
【採算について】

- 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.9 (前月水準▲24.7)となり、マイナス幅が9.8ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.4 (前月水準▲13.3)であり、マイナス幅が9.1ポイント拡大する見通しである。



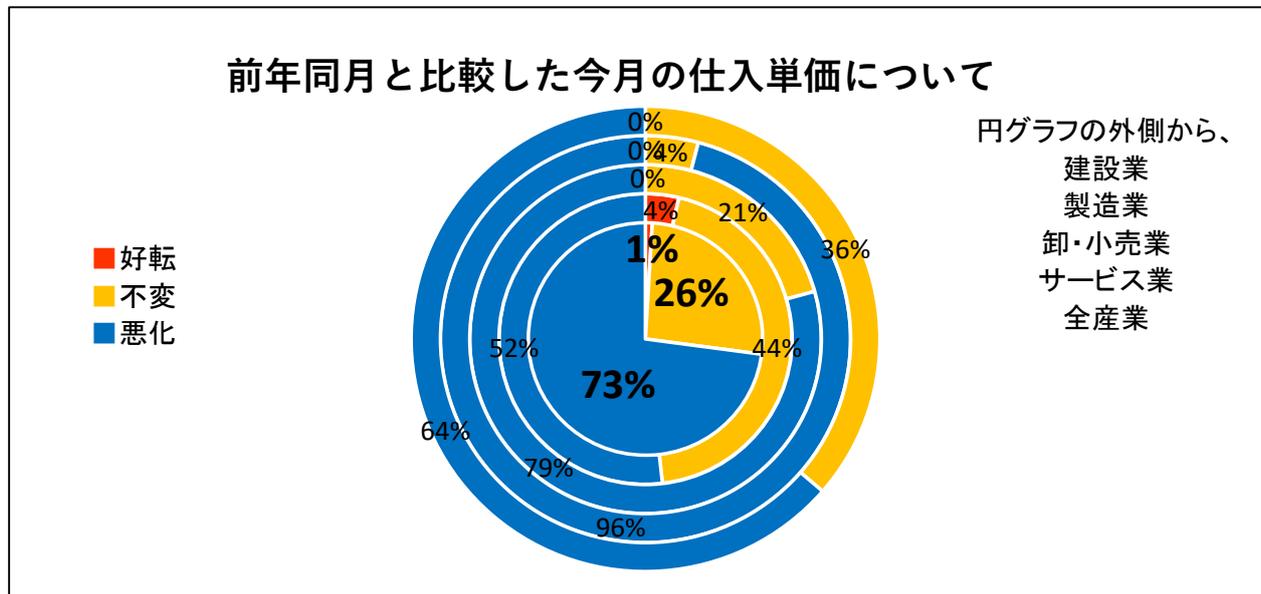
採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和4年							先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
	2月	3月	4月	5月	6月	7月		
全産業	▲20.8	▲21.4	▲14.5	▲21.0	▲24.7	▲14.9	▲22.4 ( ▲13.3 )	
建設	▲30.0	▲28.5	▲20.0	▲15.7	▲36.8	▲27.2	±0.0 ( ▲26.3 )	
製造	▲28.0	▲32.0	▲29.6	▲28.0	▲29.6	▲33.3	▲41.6 ( ▲7.4 )	
卸・小売	▲36.1	▲21.6	▲17.6	▲28.1	▲15.1	▲17.6	▲41.1 ( ▲30.3 )	
サービス	△5.8	▲6.8	△12.5	▲8.3	▲23.0	△14.8	±0.0 ( △11.5 )	



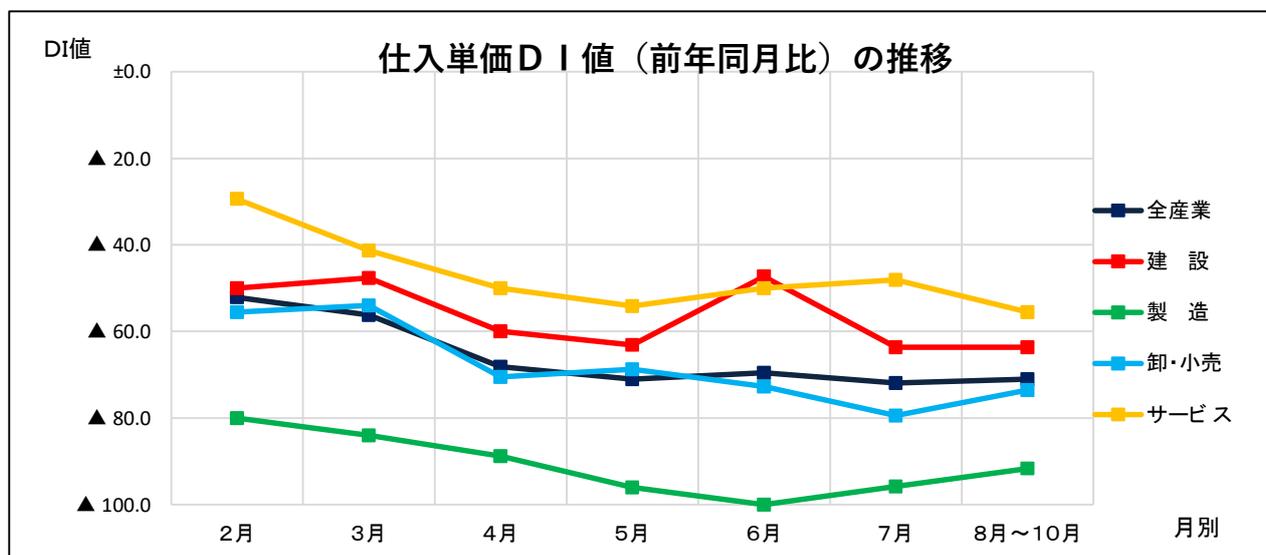
【仕入単価について】

- 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲71.9 (前月水準▲69.5)となり、マイナス幅が2.4ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲71.0 (前月水準▲65.7)となり、マイナス幅が5.3ポイント拡大する見通しである。



仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

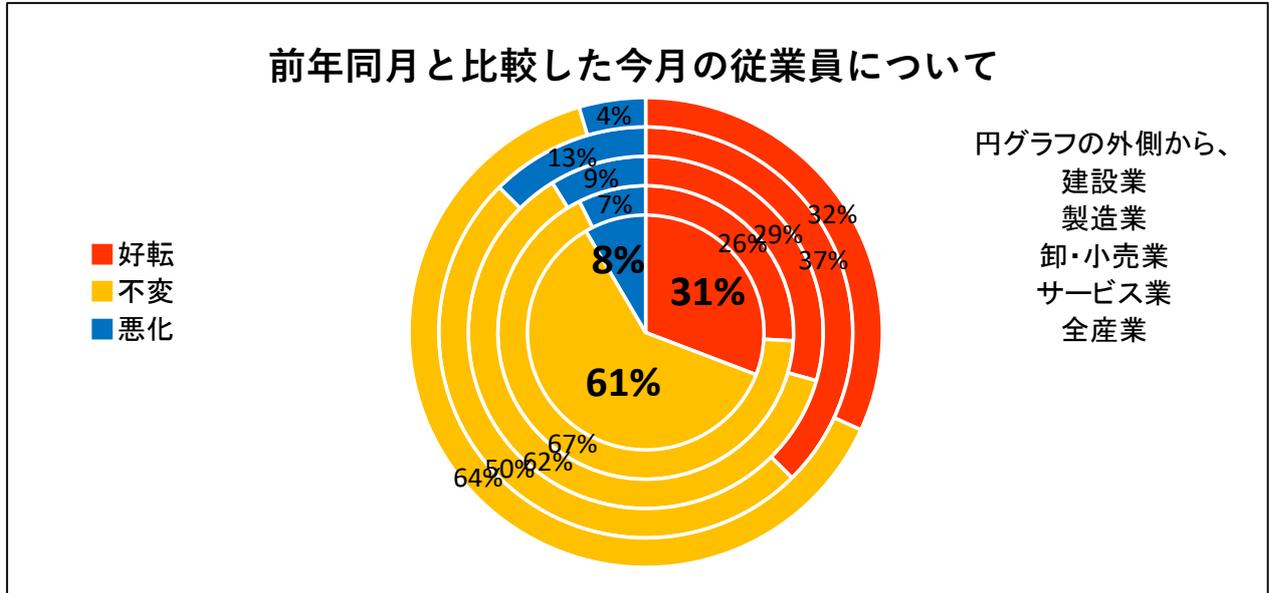
	令和4年							先行き見通し
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月~10月(7月~9月)	
全産業	▲52.1	▲56.2	▲68.1	▲71.0	▲69.5	▲71.9	▲71.0 (▲65.7)	
建設	▲50.0	▲47.6	▲60.0	▲63.1	▲47.3	▲63.6	▲63.6 (▲52.6)	
製造	▲80.0	▲84.0	▲88.8	▲96.0	▲100.0	▲95.8	▲91.6 (▲88.8)	
卸・小売	▲55.5	▲54.0	▲70.5	▲68.7	▲72.7	▲79.4	▲73.5 (▲63.6)	
サービス	▲29.4	▲41.3	▲50.0	▲54.1	▲50.0	▲48.1	▲55.5 (▲53.8)	



【従業員について】

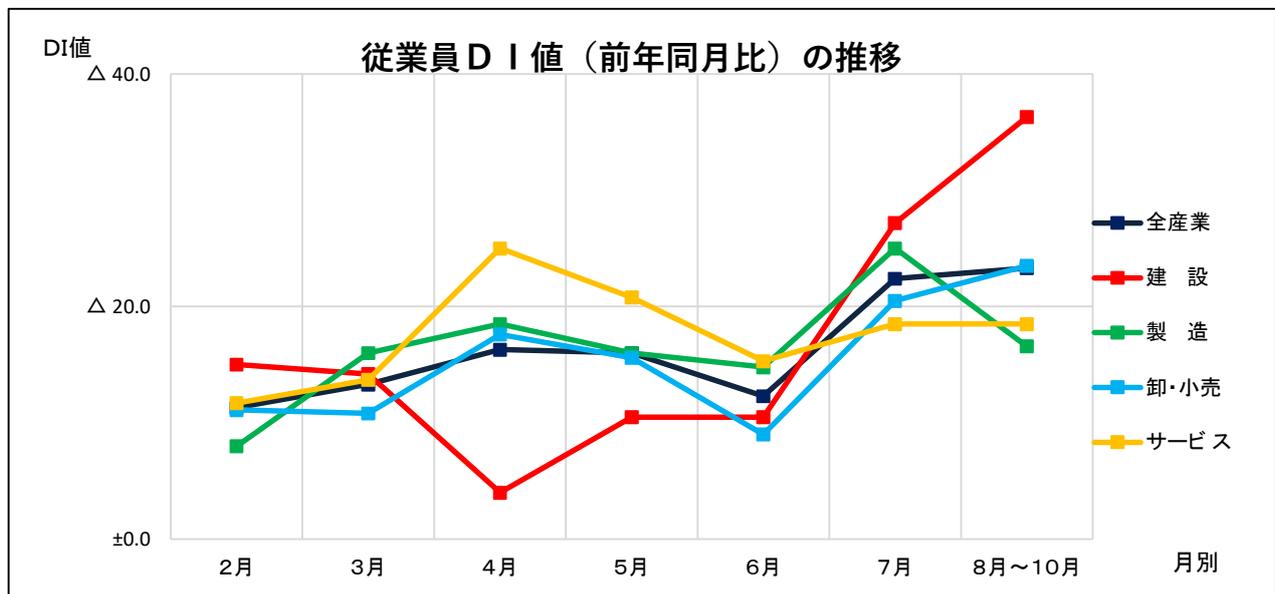
○ 7月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△22.4(前月水準△12.3)となり、プラス幅が10.1ポイント拡大した。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、△23.3(前月水準△18.0)となり、プラス幅が5.3ポイント拡大する見通しである。



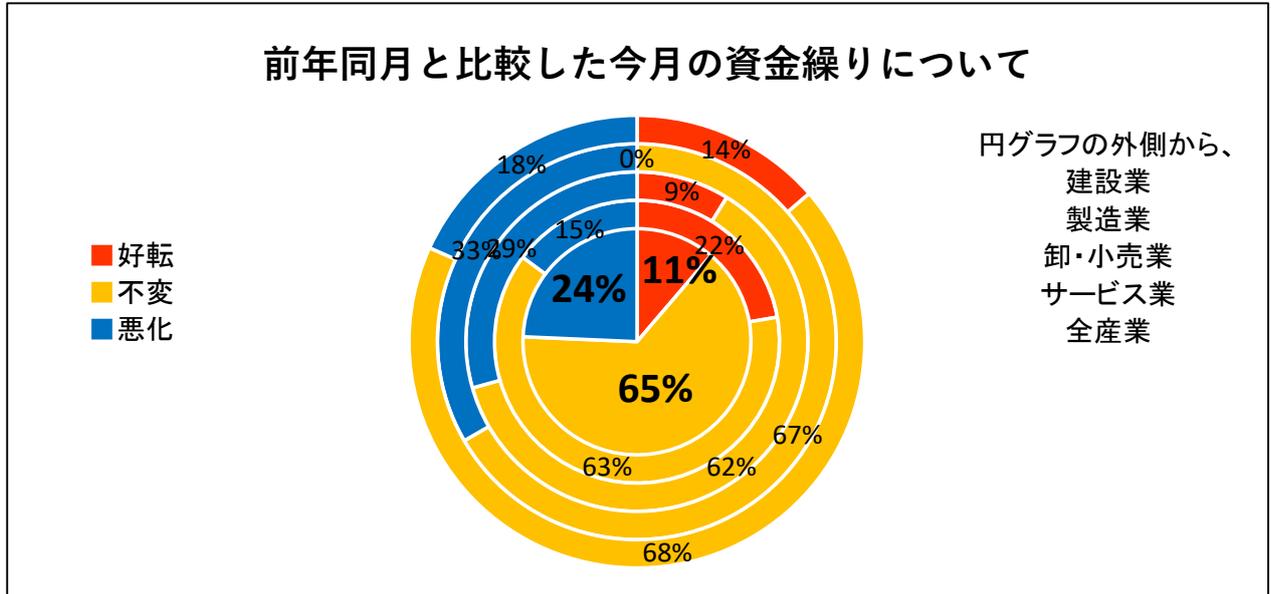
従業員D I値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和4年						先行き見通し
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月~10月(7月~9月)
全産業	△11.3	△13.3	△16.3	△16.0	△12.3	△22.4	△23.3(△18.0)
建設	△15.0	△14.2	△4.0	△10.5	△10.5	△27.2	△36.3(△26.3)
製造	△8.0	△16.0	△18.5	△16.0	△14.8	△25.0	△16.6(△14.8)
卸・小売	△11.1	△10.8	△17.6	△15.6	△9.0	△20.5	△23.5(△15.1)
サービス	△11.7	△13.7	△25.0	△20.8	△15.3	△18.5	△18.5(△19.2)



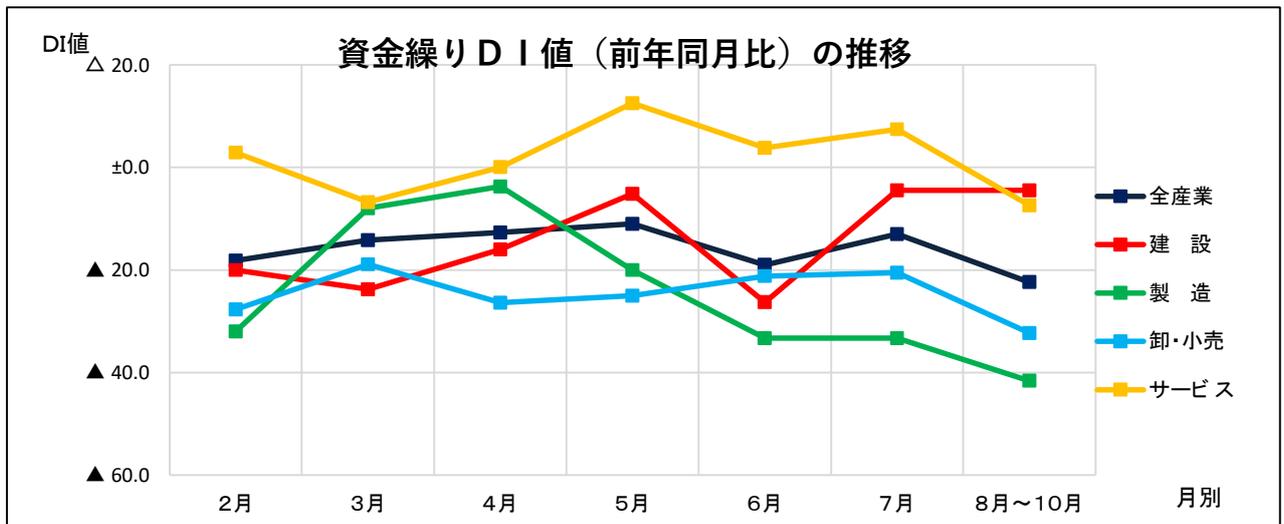
【資金繰りについて】

- 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13.0(前月水準▲19.0)となり、マイナス幅が6.0ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.4(前月水準▲19.0)となり、マイナス幅が3.4ポイント拡大する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和4年						先行き見通し
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月~10月(7月~9月)
全産業	▲18.2	▲14.2	▲12.7	▲11.0	▲19.0	▲13.0	▲22.4(▲19.0)
建設	▲20.0	▲23.8	▲16.0	▲5.2	▲26.3	▲4.5	▲4.5(▲15.7)
製造	▲32.0	▲8.0	▲3.7	▲20.0	▲33.3	▲33.3	▲41.6(▲33.3)
卸・小売	▲27.7	▲18.9	▲26.4	▲25.0	▲21.2	▲20.5	▲32.3(▲21.2)
サービス	△2.9	▲6.8	±0.0	△12.5	△3.8	△7.4	▲7.4(▲3.8)

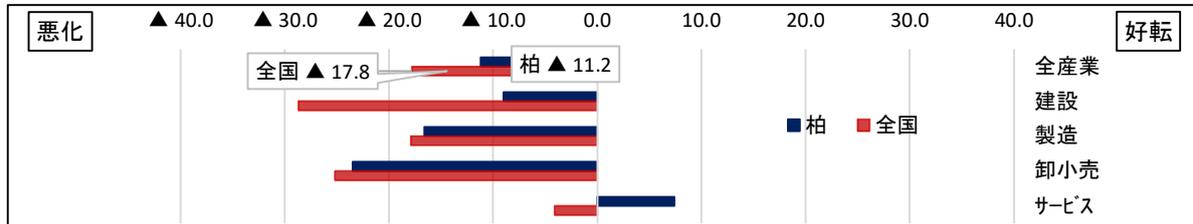


# 全国（CCI-LOBO）との比較

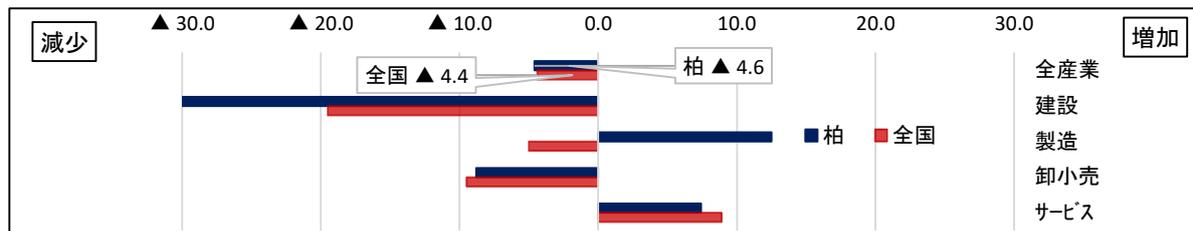
## 【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

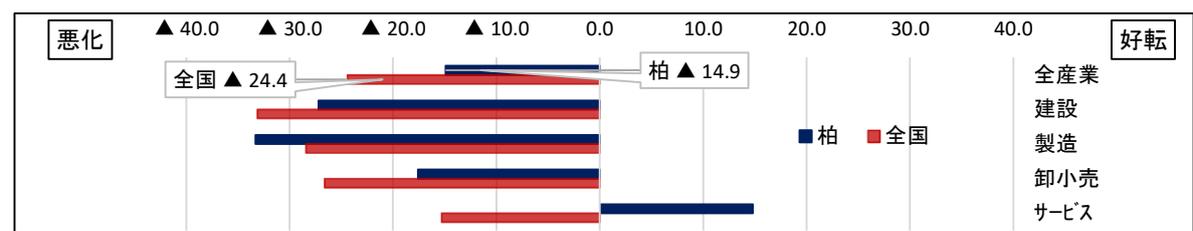
### 【業況DI】



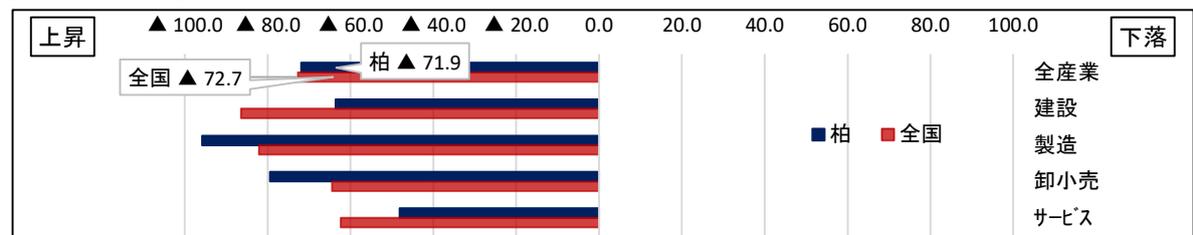
### 【売上DI】



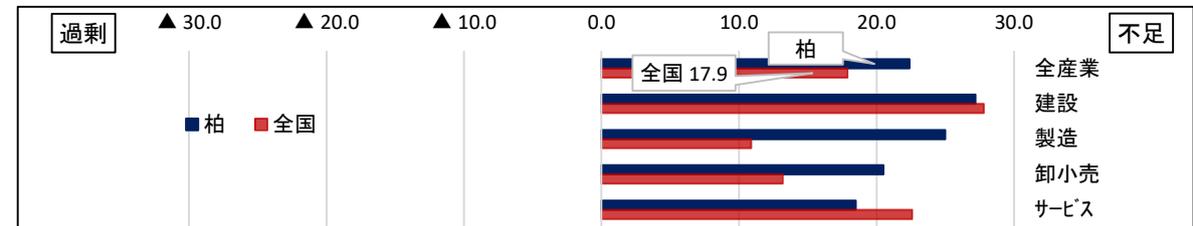
### 【採算DI】



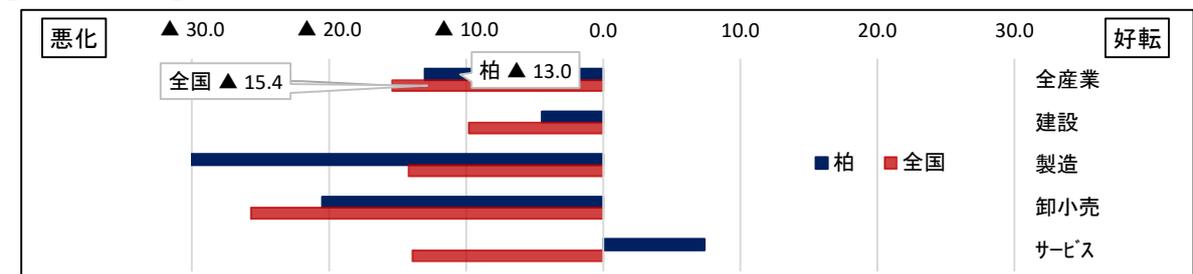
### 【仕入単価DI】



### 【従業員DI】



### 【資金繰りDI】



## 【業種別】業界内トピックス

業種別	概況	業種
建設業	材料高騰を見越した現時点の単価での受注数が、かけ込みで多くなっている。仕入単価があがっているのに、今までの単価での受注に苦戦している。	とび
	コロナの蔓延に伴い社内でも感染者が出てしまい、業務に支障をきたして居ります。	土木工事業
	建築資材の高騰が続いている。	一般土木建築工事業
	今回の柏市とPayPayのキャンペーンには間に合いませんでしたが、当店も8月17日からPayPayが利用出来るようになる予定です。	畳工事請負・畳製造販売業
	建材等資材の値上げ予定が発表され、駆け込み需要があります。	一般土木建築工事業
	半導体不足で納期未定、価格が高騰している	電気工事業
製造業	新型コロナの影響で口紅容器の受注が下げ止まったまま、回復傾向が見られない。医療品容器の受注に関しては、わずかながら好転の可能性もある。	プラスチック加工
	①継続的な半導体不足・・・売りに直結 ②サプライチェーンの分断で部品の調達不足による部品不足・・・売りに直結 ③材料の高騰 金属、樹脂ともにこれまでにない値上げ幅と回数・・・利益に直結 ④コロナ禍による対面行動の制限・・・コミュニケーション不足に直結、売りに直結 ⑤電力の制限と価格の上昇・・・利益に直結 背景に中国などのロックダウン行動制限の影響が大きい、ロシア、ウクライナの影響もじわじわと中小企業に出てきている	金属素形材製品製造業
	依然としてコロナ禍の影響が続いておりますが、電気料金の高騰の影響もあり、現在取り急ぎ節電計画を立案中です。	電子応用装置製造業
	生産量は微減だが、値上げしているため売上げは上昇。しかし、仕入れ価格が軒並み上昇しているため、利益は大幅減少している。値上げ幅が追いついていない状況です。今後も続く見通し。	畜産食料品製造業
	半導体不足+中国ロックダウン+国家間紛争の影響で、特に電気部品の収集に時間とコストがかかっている。原材料の上昇も未だに上昇しているため、先行きが見えない。	機械・同部品製造業
	売上は増加しているが、それを上回る勢いで仕入単価が増加している。利益の確保のために必死である。材料だけにとどまらず電力、ガソリン、副資材の値上げも続いている。世界規模の視野で先行きを見通せない現在、取りこぼしのないように日々努めている。	金属製品
	新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で、売上量、製造量が減少してきている。このままの現象が続くと、エネルギー単価の上昇や原材料の値上げにより厳しい状況になると予想される。	酒類製造業
	全体的に少しずつ景気回復に向けて動いている雰囲気はあるが、道路工事関連の予算の動きがまだ鈍い。一般産業資材については、値上げが繰り返されている状況で先行きが見えない。コロナについては、何名かの社員が感染し、休む事態が発生した。	化学工業
	今は売上が伸びてきているので、原燃料価格上昇はなんとか吸収できているが今後が心配。コロナの家庭内感染等で社員が濃厚接触者になり、自宅待機が増加。感染対策(入社前の検温・マスク着用・消毒等)の実施を継続。	鉄鋼業
	電子帳簿保存法に則した方式で電子データによる保存が義務化されたが、商業印刷の分野にとって厳しく、急ぎ対策が必要となっている。	印刷業
	コロナ禍前、前年と比べて売上がこの3か月大きく減少しているが、具体的な要因を把握するのが難しい状況になってきた。思った以上に世の中全体の景気が悪くなっている気がする。	自動車付属品製造業
	コロナ感染者数増加に伴い、店舗営業の持続が困難となる傾向が見られ始めている。テナントにおいては原材料費高騰に伴う店舗経営への圧迫や、不安定な海外情勢に伴う商品供給のストップによる機会損失など、厳しい状況が継続。	各種商品小売業

## 【業種別】業界内トピックス

### 卸・小売業

<p>今月は、昨年大きな売上があがっているため売上減少としたが、悪くない着地になりそう。しかし、夏の感染症拡大は大きな影響が出るのではないかと予想される。多分、8月、9月いっぱい。何とか売先を拡販しているが、市内顧客（飲食店）は柏市場への来場がない。海苔の原価は冬に全て仕入れたので変わらないが、包装資材、電気代の価格が上がっているため、それなりに利益も減少の予定。</p>	食料卸売業
<p>今月に入り新型コロナの感染拡大の影響が出始めている。買い物頻度の減少や、好調だった衣料品などは陰りを見せ始めている。土用丑の日はうなぎの高騰により、購入をためらう客が増え、昨年より下回る結果となった。</p>	大型小売店
<p>コロナ感染状況悪化も行動規制なく、セール期への期待感も合わせ、入店数、飲食・アパレルなどの取扱高は回復傾向続く。原油高、円安起因の電力を含めたコスト増が続き、感染状況も相まって先行きは懸念される。</p>	百貨店
<p>暑さが続き売上が減少</p>	洋菓子店
<p>8月、9月の柏市によるPAYPAYのポイント還元を期待。</p>	洋菓子店
<p>前半は猛暑か雨、後半はコロナ第7波の影響が客数にみられた。暑さ対策商品と共に、再びコロナ対策商品の売上が目立った。</p>	各種商品小売業
<p>新型コロナウイルスの影響で、青果の購入経路に大幅な変化が起きたことを実感している。ネット通販サイトの充実により、ネット経由での購入が増加していると思われ、実店舗への来店理由を産み出すことが、より必要になってきていると感じる。また、原油・原材料・仕入価格が上昇している。現時点では商品価格への転嫁をおこなっていないものの、今後は検討する必要に迫られるものと見込んでいる。天候の影響で、全国的に異なる産地の出荷が重なり、青果は供給過多気味で価格が低下している。また、暑さの影響で自宅調理を敬遠する傾向が見られる。逆に、飲食店への販売は増加しているものの、今後の新型コロナウイルス感染状況によっては、減少に転じることも想定しておく必要があると感じる。</p>	青果小売業
<p>輸送用機器、船舶をメインに取り扱っていますが、特に中古自動車の高騰が止まらない。新車の納期の大幅遅延により、新車を諦めて中古自動車に手を伸ばすユーザーは海外も同様で、更に円安を追い風に本邦の中古自動車価格を吊り上げている。ロシアもいつ輸入出来なくなるか判らないため、ルーブル高を良い事に中古自動車や自動車部品を買い漁っている。ロシアによるウクライナ侵攻以降、コモディティも高止まりし、生活物資の優等生である鶏卵（円安と飼料価格の高騰）、米（肥料が高騰）にまで波及、燃料代や電気代の影響で今後は商品にもっと価格転嫁されるだろう。</p>	自動車卸売業
<p>良い人材は海外に目を向けています。日本の指導力の無さがそうさせているように感じます。</p>	医療機器販売
<p>原材料不足による仕入価格の高騰及び納期の遅延、輸送コストの上昇及び遅延、さらには円安による為替差損により大打撃を受けている。</p>	産業機械器具輸入販売
<p>養殖魚の価格高騰、円安による輸入魚の単価高、水産物の売れ行きは非常によくありません。また、ここにきてコロナの感染者拡大により、飲食店等外食産業に陰りが見え始めました。</p>	水産物卸売業
<p>上海のロックダウンが終わったものの、新車の納期遅れ等は特に解消されず、物流業界全体の動きが鈍い。ここに来てアメリカのリセッション、中国の景気も怪しく、東南アジアの景気も鈍ってきている。今年後半は厳しい予感がしてきました。何とか頑張って行きます。</p>	産業機械器具卸売業
<p>感染者急増により、7月後半の団体客や会社関係の予約がキャンセルになり、売上減少傾向に。</p>	日本料理
<p>家族がコロナに感染してしまい、濃厚接触者となったため夏期講習を欠席せざるを得ない生徒が複数出ていて、その補習授業を組むのに非常に苦労している。</p>	学習塾
<p>光熱費の高騰を含め、様々なものの値上がりを実感中。再度の経費の見直しに着手。</p>	不動産賃貸・管理業
<p>運送業界では、標準的な運賃が公開されるも、実際に運賃値上げに応じてくれる荷主は少数にとどまる中、燃料費の高騰により利益を圧迫している。</p>	一般貨物自動車運送業

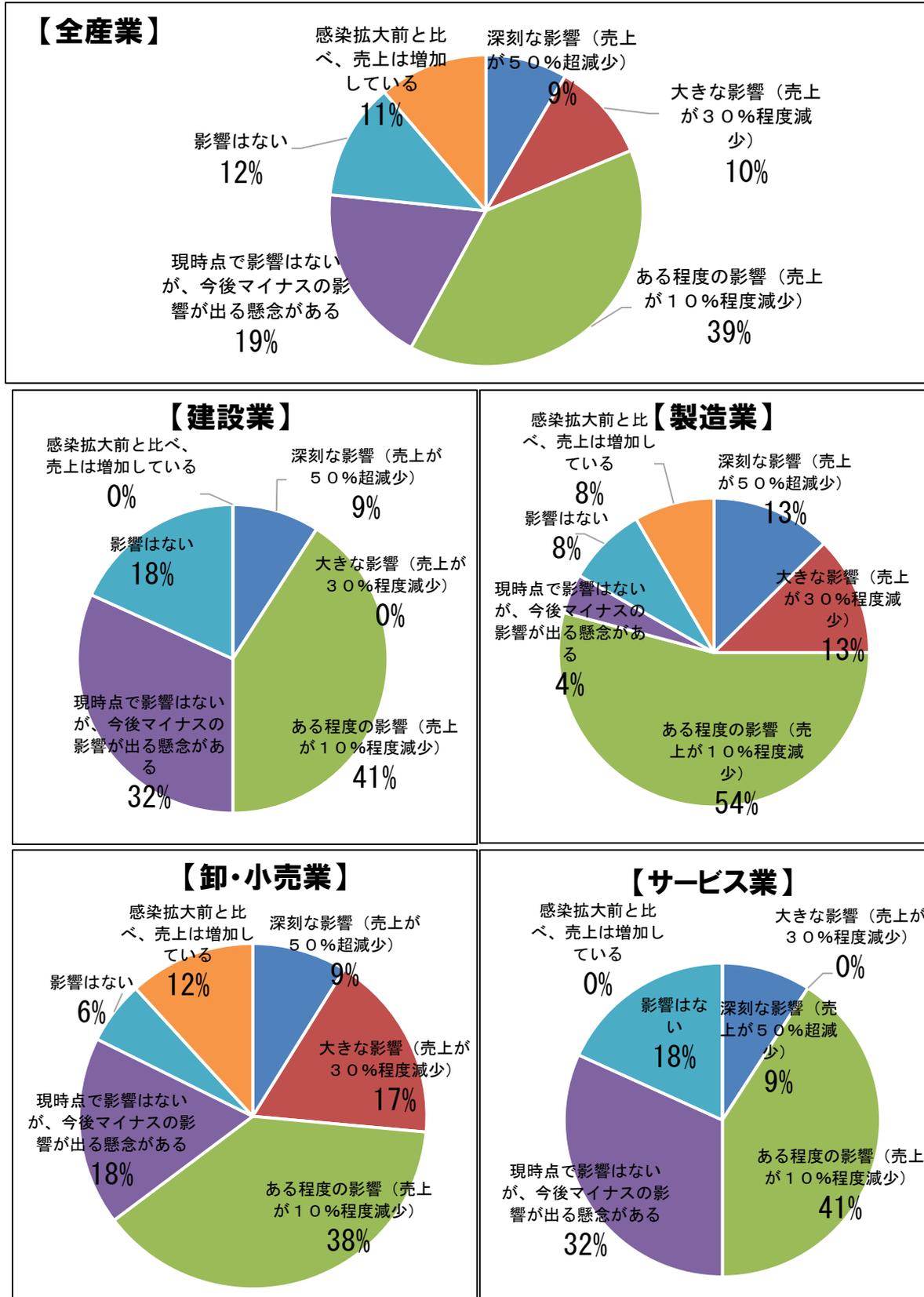
## 【業種別】業界内トピックス

サービス業	いろいろ値上げされるものが多いが、工夫してこなし、見積り依頼は欲張らず、必ず契約を取るようになっている。	産業廃棄物処理業
	景況の状態が不安定で先行きの見通しが難しい	不動産鑑定評価業務
	ゴルフ業界はコロナバブルに湧いていましたが、今年の2月頃より前年同月を割り込む施設が9割以上となり、バブルは終わったと感じています。仕入高騰を販売価格に転嫁できない業界なので、今後厳しくなっていくだろう。	ゴルフ練習場
	急激な感染拡大で来店者の減少が著しい	洗濯業
	数社の顧問業務を営んでいる関係で、業績変動はありません。	専門・技術サービス業
	コロナ禍ですが、取引件数、売上ともに増加。ただ、資材高騰により利益率は低下している。お客様からの問い合わせ、相続による売却相談は増えている。	不動産管理業
	第7波、猛暑、大雨などでかなり客足が減っている。既存ターゲットの世代を変える工夫が必要と感じている。ネット販売の準備を勧めている。	飲食店

附帯調査結果

# 新型コロナウイルス感染症の影響について

○新型コロナウイルス感染拡大前と比べた、今月の売上について



# 調査要領

調査期間

令和4年7月26日 ～ 令和4年8月9日

調査対象

柏市内151事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	151	107	70.9%
建設	34	22	64.7%
製造	34	24	70.6%
卸・小売	46	34	73.9%
サービス	37	27	73.0%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 う3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

## ※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

## ※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				